

港のたより



(一社) 寒地港湾技術研究センター
COLD REGION PORT AND HARBOR ENGINEERING RESEARCH CENTER



石狩湾新港に建設した北ガス石狩発電所(提供:北海道ガス株式会社)

Contents

港湾ニュース

- 北海道胆振東部地震で入浴・洗濯・給水等の被災地支援を実施
～苫小牧港における大型浚渫兼油回収船「白山」を活用した支援活動～ 2
- 全国初の穀物輸入拠点の完成
「国際バルク戦略港湾 釧路港国際物流ターミナル完成式」の開催 4
- 北極海航路の拠点形成に向けた現地調査 5
- 「北方海域技術研究委員会 平成30年度 定例会」を開催しました 8
- 第57回 北海道開発局空港技術研究会議の開催 9
- 新千歳空港工事現場見学会を開催しました 10
- 大規模な地震・津波を想定した防災訓練実施について
～平成30年度 小樽港大規模地震・津波総合防災訓練～ 11

シリーズ

- 現代語訳 日本築港史(網走港) 13

センター通信

- 第3回 CPC 交流セミナー開催 15
- 「CPC 技術講習会(留萌会場)」の開催について 15
- 助成事業報告 16

お知らせ

- 道内主要港の港湾計画図をホームページに掲載しました 23
- NETIS 登録申請支援業務を開始しました 25
- 編集後記 26

vol. 127
2018.12.26

NEWS 港湾ニュース

■ 北海道胆振東部地震で入浴・洗濯・給水等の被災地支援を実施 ～苫小牧港における大型浚渫兼油回収船「白山」を活用した支援活動～

北海道開発局 室蘭開発建設部 苫小牧港湾事務所

はじめに

9月6日に発生した北海道胆振東部地震に対し、北海道開発局と北陸地方整備局は苫小牧港東港区で、北陸地方整備局に所属する大型浚渫兼油回収船「白山」(4,184GT)を活用し、防災エキスパートや一般社団法人日本埋立浚渫協会の協力のもと被災地支援活動を実施しました。

東港区は震源地に近く、大きな被災を受けた厚真町、安平町、むかわ町に近接する唯一の港湾であり、船舶を活用した被災地支援の拠点として地理的に適しています。

しかし東港区の公共岸壁は、外貿コンテナ船や、本州の日本海側と結ぶフェリーなどの定期船(21.5便/週)が就航しています。外貿コンテナ船が就航する中央ふ頭は、全道の外貿コンテナの取扱量のうち72%を占める物流拠点として、また、フェリーが就航する「周文^{しゅうぶん}ふ頭」では、フェリーが地震発生後も平常どおりに運航し、救助要請に応じた緊急物資や緊急車両を輸送したほか、混乱した鉄道・航空輸送の代替輸送手段としてそれぞれ重要な役割を果たしていましたので、「白山」の係留にあたっては、こうした定期船の就航を優先する必要がありました。

そのため、東港区での「白山」の支援活動にあたっては、公共岸壁でのバース調整を行いながらの係留と

なり、初日と2日目は外貿コンテナ船が就航する中央ふ頭、3日目からはフェリーが就航する周文ふ頭の利用としました。また、「周文ふ頭」では、フェリーが利用する夜間に「白山」を一時退避させたほか、日中についてもフェリーの支援船やその他貨物船の利用と調整しながらの係留となりましたので、支援活動の実施時間はその日によって異なる状況でした。

こうして、9月8日(土)から9月16日(日)までの9日間にわたり、東港区で被災地支援活動を実施しました。

「白山」の被災地支援内容

①入浴・洗濯

被災者向けに「白山」の浴室と洗濯設備を開放しました。浴室は1箇所しかないので、時間帯による男女入れ替え制となりましたが、入浴・洗濯支援は延べ136人に利用され、「入浴により元気を取り戻しました」「洗濯が出来て助かりました」「子供たちの笑顔が見られました」といったメッセージをいただきました。

②飲料水の提供

東港区に近接する被災地は水道が断水したことから、「白山」の清水タンクから飲料水を供給しました。被災者の方に給水袋を渡したほか、給水車への給水を行うなど、延べ32.1kℓの飲料水を提供しました。

③重油の提供

「白山」の燃料油(A重油)の一部を供給しました。日本埋立浚渫協会北海道支部が陸上輸送を行い、むかわ町の避難所等へ11.5kℓの重油を提供しました。

④緊急物資

新潟港から運んだ支援物資として、非常食約3,000食、飲料水(ペットボトル)3,030ℓを北海道生活物資第一次集積拠点に届けました。



「白山」支援活動の概要

9月 8日(土)	14:50	苫小牧港東港区に入港
	17:00 ~ 22:00	入浴支援
9月 9日(日)	8:00 ~ 9:00	支援物資積み卸し・引き渡し
	13:00 ~ 20:00	入浴・洗濯・給水支援
9月10日(月)	11:00 ~ 15:00	入浴・洗濯・給水支援
9月11日(火)		
9月12日(水)	9:00 ~ 15:00	入浴・洗濯・給水支援
9月13日(木)		
9月14日(金)	※給油支援(14日)	
9月15日(土)		
9月16日(日)	8:30 ~ 11:00	入浴・洗濯・給水支援
	13:00	苫小牧港出港

おわりに

最終日の16日には、地元を代表して苫小牧地方総合開発期成会会長で苫小牧市の岩倉市長が「白山」の被災地支援活動に感謝を伝え、船長に花束を手渡しました。

今回、入浴や洗濯など、船舶を活用した災害支援は北海道開発局として初めての経験だと思いますが、大きなトラブルもなく活動を終了することができました。

最後となりましたが、今回の被災地支援に駆けつけていただいた「白山」の船員を初めとする北陸地方整備局の皆様、活動にご協力いただいた防災エキスパートや一般社団法人日本埋立浚渫協会の皆様、岸壁の利用にご協力いただいた苫小牧港管理組合や新日本海フェリー株式会社の皆様、度重なる繋離船作業の時間変更に快く対応していただいた苫港サービス株式会社の皆様など関係者の方にこの場をお借りしてお礼申し上げます。



入浴支援状況 (浴室)



入浴支援状況 (控室)



洗濯支援状況



持ち帰り用給水袋



給水支援状況 (給水袋)



給水支援状況 (給水車)



重油支援状況



緊急物資積み卸し



緊急物資届け

■ 全国初の穀物輸入拠点の完成

「国際バルク戦略港湾 釧路港国際物流ターミナル完成式」の開催

北海道開発局 釧路開発建設部 築港課

平成30年11月23日(金・祝)釧路市観光国際交流センターにおいて「国際バルク戦略港湾 釧路港国際物流ターミナル完成式」を港湾管理者である釧路市、荷役機械の整備主体で埠頭運営事業者の釧路西港開発埠頭株式会社、岸壁や泊地の整備主体である北海道開発局釧路開発建設部の共催により開催しました。

同ターミナルは、とうもろこし等の飼料原料を満載にした大型船の入港を可能とし、大型船での大量一括輸送による効率的な輸送体系の実現を図ることを目的に、平成26年度より岸壁(水深14m)などの整備に着手し、平成30年3月には岸壁本体が、11月に埠頭運営事業者による荷役機械が完成しました。

完成式には、塚田一郎国土交通副大臣、前国土交通大臣の太田昭宏衆議院議員、伊東良孝衆議院議員、鈴木貴子防衛大臣政務官、繁本護衆議院議員をはじめ、飼料穀物の主要生産国から在札幌米国総領事館のロバート・ピケット領事や地元農業関係者など、多方面より約150人が出席しました。

式辞では、主催者を代表して港湾管理者の蝦名大也釧路市長が「国際バルク戦略港湾として全国初となる穀物の輸入拠点の完成により、物流コストの低減などの整備効果は、東北道だけではなく、広く全国への波及する」とアピールしました。

続く挨拶では、塚田副大臣が「釧路港をファーストポートとして、大量一括輸送が実現し、安定的で効率的な飼料穀物の供給体制が構築される。これを第一歩として我が国全体としての安定的かつ効率的な海上バルク輸送網の形成に全力で取り組む」と述べました。

また、祝辞では、前国土交通大臣の太田昭宏衆議院議員が「釧路は、世界の北海道として伸びゆく地域であり日本の台所。世界は物流の変化の渦中、バルクの完成で、釧路が益々発展することに期待」、伊東良孝衆議院議員が「繁本先生とともにバルク政策を進めてきた。本日は非常にうれしい。バルク完成により道東、北海道の皆さんが良くなることを祈念」、鈴木貴子防衛大臣政務官は「市民の総意の元でこの整備が行われた。完成したバルクを我々が知恵を出して、地域を発展させることが重要」、繁本護衆議院議員が「今日は感無量。7.3万の署名が集まった国家プロジェクトは初めてであり、本来の国家プロジェクトのあるべき姿」

と述べ、地域一丸となって実現したバルクの完成と、今後の更なる発展に期待を示しました。

その後、飯田釧路港湾事務所長から、工事着手から完成までの映像をまじえた「事業概要報告」を行い、さらに、飼料ユーザーである畜産・酪農家と飼料穀物輸送者を代表して、安田全国農業協同組合連合会常務理事が「釧路港が北海道はもとより、日本の農業にとって益々重要な役割を果たす」と述べるとともに、飼料穀物の生産者を代表して、アメリカ穀物協会よりビデオレターが届けられ「釧路港は、アメリカにとっても重要なみなとだ」と釧路港への期待を示しました。

最後に来賓や関係者によるテープカットを執り行い、完成を祝いました。



完成式の様子



テープカットで完成を祝う



完成した西港区第2埠頭地区国際物流ターミナル

北極海航路の拠点形成に向けた現地調査

(一社) 寒地港湾技術研究センター

概要

ロシアにおける北極海航路の東側拠点に位置付けされているペトロパブロフスク・カムチャッキーは、カムチャッカ半島南東部に位置する人口約 17 万のカムチャッカ半島最大の都市です。

また、ペトロパブロフスク・カムチャッキー港(不凍港)には、旅客ターミナルの整備や、コンテナ航路が開設されたとの情報もあるほか、ベチェビンスカヤ湾に北極海航路を利用する LNG 船の積替基地が計画されています。

このような状況下、今後、道内港湾が北極海航路の拠点形成に向けて必要となる取組に資すること及び現地におけるインフラの整備状況把握を目的に平成 30 年 10 月 28 日～11 月 1 日、行政機関、地元企業等と意見交換するとともにペトロパブロフスク・カムチャッキー港を視察しました。

さらに、ウラジオストクにおいて、コンテナ輸送を行っている海運・物流会社との意見交換及びウラジオストク港の視察のほか、ロシア進出企業のサポート事業を行っている北海道銀行ウラジオストク駐在員事務所と意見交換を行いました。

訪問先では北海道庁から北海道の概要(地理、港湾・空港、産業等)を説明するとともに石狩湾新港管理組合、苫小牧港管理組合からは各港の PR も行いました。

以下に概要を報告します。

調査メンバー

現地調査は産学官連携による北極海航路の利活用に向けた取組の促進を目的として、経済界、研究機関も含め、8 機関 10 名(北海道総合政策部交通政策局交通

企画課、北海道経済同友会、北海道 21 世紀総合研究所、北海道大学、石狩湾新港管理組合、苫小牧港管理組合、北日本港湾コンサルタント(株)、(一社)寒地港湾技術研究センター)で行いました。

主なヒアリング結果

1. ペトロパブロフスク・カムチャッキー港

(ロスモルポルト、カムチャッカ地方行政政府、カムチャッカ州開発公社)

- ・LNG 積替基地は PPP 方式により 2023 年頃までに建設する計画となっている。
- ・貨物輸送はウラジオストク経由が中心。
- ・主な輸出品目は水産物(魚類)、他には鉱物資源。
- ・現在、コンテナ取扱貨物量は多くはないが、北極海航路に係る地理的な関係で今後はコンテナ貨物の割合が増加するものと考えている。
- ・ペトロパブロフスク・カムチャッキー港は一等地で、冬でも凍らない不凍港のため、アイスクラス船の運航コストを抑えられる。構想段階であるが、コンテナ貨物についても同じスキームで構築できると考えている。
- ・現時点の最大の課題は施設の更新と近代化。将来の課題は LNG 積替基地の整備。
- ・岸壁前面から 10m は国有(連邦政府)財産。10m 背後及び関連施設は民間が整備。
- ・カムチャッカ地方では、新規プロジェクトを立ち上げるため、特区など税金を含めた優遇措置を執っており、結果、民間アプローチが増え、国と民間の投資によるプロジェクトとして成り立っている。

訪問先

訪問先	概要
ロスモルポルト	港湾管理、整備、民間整備窓口(国営企業)
カムチャッカ地方行政政府	ロシア連邦政府の構成主体の一つ(日本の都道府県に該当)
カムチャッカ州開発公社	カムチャッカの開発企業
FESCO	極東地域最大の海運・物流会社。コンテナ輸送も行う
北海道銀行ウラジオストク駐在員事務所	ロシア進出企業等の現地サポート

- ・コンテナターミナルは、2023年までの計画期間で岸壁改良と増深を行う予定である。
- ・カムチャッカは自然が豊富で温泉もあり、スキーもできることから国内はもとより外国からの観光客も増加している。このため、観光用のインフラ、ホテルの整備も進んでいる。

2. ウラジオストク港

(FESCO 主にコンテナ輸送について)

- ・ロシアでもコンテナを用いた物流が増加している。
- ・日本からモスクワ、欧州方面にハイテク関連や高価な貨物を輸送する場合、荷主の多くが海上輸送に比べコスト高となるものの日数を短縮できるシベリア鉄道を選択する。
- ・現状は輸出に比べ輸入のコンテナが多いがここ2年間は輸出量、輸出品目も増加。
- ・近隣国では日本、韓国、中国と定期航路で結ばれている。
- ・日本とはコンテナ船を運航しているが、3か国の中では輸出・輸入のバランスが最もよい。

- ・日本からの輸入品の8割はシベリア鉄道で西(モスクワ、欧州方面)へ輸送。
- ・現状の貨物量を考慮すると北海道とロシア間の定期航路開設には至らないものの、既存航路(ウラジオストク-コルサコフや釜山のセミコンテナ船)の活用により可能と考えられる。
- ・現状では北極海航路を利用するコンテナ輸送については時期が限定(夏期)され、コスト高もあり、他の輸送手段(海上+鉄道)と比較して、それほど競争力を持たないと思う。なお、砕氷船を使用しても5,000TEUを超えるコンテナ船は通れない。
- ・ただし、LNG、石油製品については季節限定されないため、見通しが明るい。
- ・連邦政府から2024年までにシベリア鉄道の輸送量を4倍に増やすよう指示があった。
- ・ウラジオストク港のコンテナ取扱可能量は60万TEU。今年は52万TEUを想定。取扱可能量の拡大に向け、ソフト対策(オペレーション改良)、ハード対策(荷役機械の近代化、増設)の計画がある。



訪問先



ペトロパブロフスク・カムチャツキー港



延長 200m 最大水深- 10.5m クルーズ船対応岸壁
(ペトロパブロフスク・カムチャツキー港)



ロスモルポルト社との意見交換



カムチャッカ地方行政政府及び州開発公社との意見交換



LNG 積替基地の位置図
(ペトロパブロフスク・カムチャツキーから 95km)



FESCO (コンテナ輸送) との意見交換



ウラジオストク港 コンテナパース (3B)
(ガントリークレーン 6 基、実入りコンテナ 5 段積、最大入港
実績 4,000TEU/隻、岸壁水深 - 10.5 ~ 13.2m)

最後に

短期間の視察ではありましたが、両港とも視察団の質問に積極的に回答いただきました。また、港湾の活用における前向きな姿勢も感じました。

特にペドロパブロフスク・カムチャツキー港は LNG 積替基地の急速な整備が見込まれることから今後も注目していきたいと思います。



「北方海域技術研究委員会 平成30年度 定例会」を開催しました

日本技術士会 北海道本部 北方海域技術研究委員会

平成30年10月5日、釧路市にて「北方海域技術研究委員会 平成30年度 定例会」（主催：日本技術士会北海道本部 北方海域技術研究委員会、後援：北海道開発局 釧路開発建設部）を開催しました。定例会は港湾・漁港関係技術者の技術力向上を目指し、例年、道内各地で、現地視察と講演会の2段構えで開催しており、本年は60名超の参加を得ました。

まず現地視察として、釧路港の海上視察と港資料館見学を行いました。海上視察は、港湾業務艇「たんちょう」に乗船し、供用が間近となった大型バルク船対応の-14m岸壁など、西港区全体を視察しました。船上では釧路港湾事務所の飯田誠所長から、各埠頭の役割や主要な取扱貨物について説明を受けました。資料館見学では、釧路港湾事務所の大西様、青野様らのご案内をいただきながら、骨材試験用のフルイ、作業船や釧路港築港の歴史的史料などを視察しました。

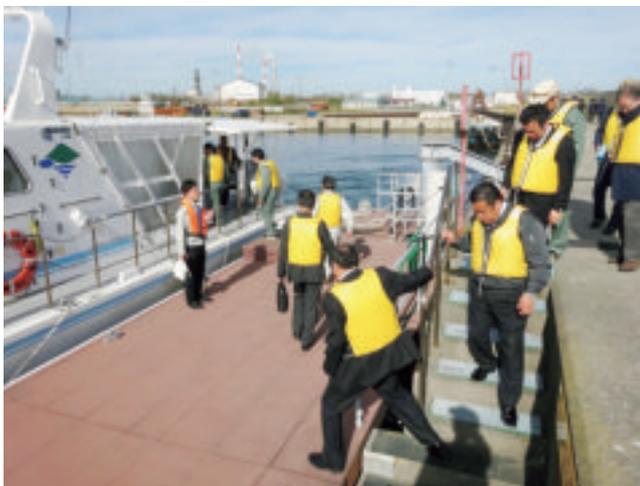


写真-1 海上視察の様子

続いて釧路市生涯学習センター(まなぼっと)にて講演会を行いました。研究委員会の寺島代表の趣旨説明と釧路港湾事務所長の飯田誠氏の開会挨拶を皮切りに、ご講演3件の内容にて開催しました。

まず、釧路港湾事務所の早川篤課長から「釧路港における国際バルク戦略港湾としての整備について」と題し、海上視察を行った-14m岸壁の整備の思想・経緯や構造上の工夫等についてご講演いただきました。

次いで、北海道区水産研究所の境磨グループ長から「国際的な水産資源評価・資源管理」と題し、資源評価・資源管理の概要と、水産政策の改革として目標管理基準の設定に向かう日本の現状についてご講演いただきました。

最後に、釧路水産試験所の近田靖子主査から「道東海域におけるアサリ漁業への取り組みについて」と題し、アサリ漁獲量の推移と北海道、とくに釧路地域の優位性、また取組事例として根室湾中部漁協のアサリ漁場での取組み、をご講演いただきました。



写真-2 満員となった講演会会場

いずれの講演も、活発な質疑応答が交わされ、北方海域の今後の展望について考える有益な機会となりました。

最後に、ご多忙な中、快くご講演をお引き受けいただいた各講師と、企画全体を通じて全面的にご協力いただいた北海道開発局 釧路開発建設部 釧路港湾事務所の皆様に心から御礼申し上げます。



第 57 回 北海道開発局空港技術研究会議の開催

北海道開発局 港湾空港部 空港・防災課

平成 30 年 10 月 10 日(水)札幌第 1 合同庁舎 2 階講堂において、第 57 回北海道開発局空港技術研究会議が開催され、空港管理者、研究機関、建設・舗装会社、建設コンサルタントなど道内外からおよそ 100 名の方にご参加いただきました。

本技術研究会議は、空港整備に携わる担当者の技術の研鑽などを図る目的として昭和 37 年度から毎年開催され、今年で 57 回目の開催となりました。

会議開催にあたり、北海道開発局眞田港湾空港部長から、「9 月 6 日に発生した北海道胆振東部地震で希にみる揺れに襲われた新千歳空港において、滑走路及び誘導路等の基本施設に被害はなく、翌日から航空機の運航を再開することができた。北海道開発局として、北海道の復興に向け全力で取り組む。」との挨拶で始まりました。

発表件名		発表者
特別講演	13:50 ~ 14:30 高松空港の今後の計画について	高松空港株式会社 金盛 将和
発表 1	14:40 ~ 15:05 当事者意見を取り入れたユニバーサルデザインに配慮した施設計画のあり方	成田国際空港株式会社 空港運用部門 施設保全部 建築グループ 上野山 裕之
発表 2	15:35 ~ 16:00 積雪寒冷地におけるコンクリート舗装の設計	国立研究開発法人 土木研究所 寒地土木研究所 寒地道路保全チーム 上野 千草
発表 3	16:10 ~ 16:35 釧路空港における滑走路端安全区域 (RESA) の整備概要について	北海道開発局 釧路開発建設部 釧路港湾事務所 第 3 工務課 丹羽 幸一

第 57 回北海道開発局空港技術研究会議プログラム

今回は特別講演を含む 4 件の発表がありました。

特別講演では「高松空港の今後の計画について」御講演をいただき、高松空港の将来に向けた具体的な取組として「NEOHENRO 四国ネオ遍路」といった動画(YouTube)による発信、JR や民鉄等の二次交通との連携サービス、空港ビルのリニューアルなど非常に参考となる御講演内容でした。

その後、成田国際空港における東京オリンピック・パラリンピックの開催に向けた施設整備として、当事者意見を取り入れたユニバーサルデザインへの配慮といったソフト面からアプローチした施設計画のあり方の発表をいただきました。さらに事業実施への課題に関する事例内容として、積雪寒冷地における凍上対策

としてのコンクリート舗装における路床の設計、釧路空港における滑走路端安全区域の整備概要と高盛土に対応した実現性の評価に基づく整備方針についてご発表いただきました。

質疑応答では、積極的な質疑があり、関心の高い内容であったと感じています。(写真 -1)

また、アンケートからは次回の技術研究会議にて講演又は発表して欲しいテーマとして、国内外の空港整備などの提案や本会議の継続を望まれる記載もあるとともに、自らの技術を発表したいと求める方もいらっしゃるなど、改めて本技術研究会議の必要性を感じているところです。(写真 -2)



写真 -1 特別講演の様子



写真 -2 発表の様子

最後に、御多忙の中、本技術研究会議で講演・発表していただきました皆様、並びに聴講にお越しいただいた皆様、改めて感謝申し上げます。

■ 新千歳空港工事現場見学会を開催しました

北海道開発局 札幌開発建設部 空港対策官

札幌開発建設部では、平成30年10月17日(水)に新千歳空港において、関係自治体を対象とした「新千歳空港工事現場見学会」を開催しました。

この見学会は、空港整備事業を紹介することを目的に平成24年度から開催し、今年で7回目を迎え、千歳市、苫小牧市などの関係自治体や報道機関から23名の方々に参加いただきました。

現在、新千歳空港では、昨今の新千歳空港における国際線旅客の急激な増加に対応するため「新千歳空港国際線ターミナル地域再編事業」を進めていますが、今年度においても航空機導線の変更による混雑緩和と地上走行距離の軽減を図るための「南側誘導路の新設事業」、駐機スポット数の拡大による訪日外国人旅行者の受入れ機能の強化を図るための「国際線エプロン

の拡張事業」に関連する工事について見学いただきました。

見学会当日は、千歳空港建設事業所において中村所長から事業の目的、工事の概要についての説明の後、工事現場に移動しました。

工事の施工箇所を見学後、工事現場では、誘導路の造成に伴う構内道路の地下化の延長や航空機が駐機するエプロン舗装の面積など施工に関することやその他本事業の実施内容などについて活発な質疑応答が繰り広げられ、見学者の皆さんには空港整備事業に興味を持っていただいたものと実感しております。

今後とも新千歳空港の整備についての理解を深めていただく取組を引き続き進めて参りたいと考えています。



見学状況（構内道路地下化工事）



見学状況（国際線エプロン工事）



出典:札幌開発建設部 千歳空港建設事業所

新千歳空港国際線ターミナル地域再編事業完成イメージ

大規模な地震・津波を想定した防災訓練実施について

～平成 30 年度 小樽港大規模地震・津波総合防災訓練～

北海道開発局 小樽開発建設部 小樽港湾事務所

平成 30 年 10 月 28 日(日)、雨模様の中、18 機関・団体から約 180 名が参加し、小樽港の勝納ふ頭で大規模地震・津波総合防災訓練を実施しました。

橋本小樽開発建設部長から訓練開始の宣言、浅輪国土交通省大臣官房技術参事官から開催挨拶ののち、来

賓でお見えになった中村裕之衆議院議員、佐藤英道衆議院議員、本多平直衆議院議員、池田真紀衆議院議員、迫小樽市長からご挨拶をいただき訓練が開始されました。



浅輪大臣官房技術参事官 開催挨拶



中村裕之衆議院議員 来賓挨拶



佐藤英道衆議院議員 来賓挨拶



本多平直衆議院議員 来賓挨拶



池田真紀衆議院議員 来賓挨拶



迫 小樽市長 来賓挨拶

訓練は、小樽沖を震源とするマグニチュード 7.6 の地震が発生し、小樽市内で震度 6 弱を観測。直後に大津波警報が発表され、最大 8m の津波が来襲、その後津波注意報に切り替わり、津波注意報も解除された状

況という想定で、①避難訓練、②漂流者捜索・救助訓練、③港湾巡視訓練、④油防除訓練、⑤航路啓開訓練、⑥被災状況調査訓練、⑦緊急支援物資輸送訓練の 7 項目の訓練を行いました。



①避難訓練



②漂流者捜索・救助訓練



③港湾巡視訓練



④油防除訓練



⑤航路啓開訓練



⑥被災状況調査訓練



⑦緊急支援物資輸送訓練

訓練後、真田北海道開発局港湾空港部長から「訓練に参加された方々の声かけには臨場感が有り迫力ある訓練だった。合わせて、津波注意報解除後の対応について、各関係機関の役割と相互連携が確認でき有意義で、防災意識の向上にも寄与した。」との講評をいただき、無事訓練を終了することができました。

今後も、より一層の安全・安心な港湾活動の実現に向け継続的に訓練を実施し、災害時にも関係機関が連携して迅速な対応ができるよう努めてまいります。



真田港湾空港部長 講評



■ 道内主要港の港湾計画図をホームページに掲載しました

従前、会員からの要請がありました道内主要港の港湾計画図について、各港湾管理者のご協力をいただき、11月1日から当センターホームページにおいて掲載を始めました。

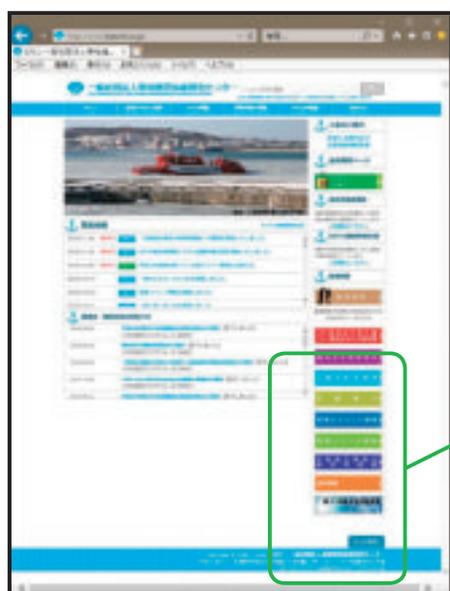
対象港は国際拠点港湾(室蘭港、苫小牧港)、重要港湾(函館港、小樽港、釧路港、留萌港、稚内港、十勝港、石狩湾新港、紋別港、網走港、根室港)及び白老港の13港です。

掲載内容は港湾計画図及び改訂後、一部変更、軽易な変更等により、計画図の変更が生じている場合は変更図及び変更年月です。

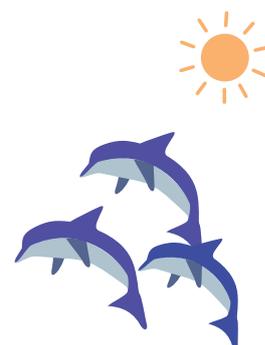
閲覧方法は当センタートップページに新たにバナー(北海道主要港の港湾計画図)を設け、順次、対象港湾を選択していただく方法です。

港湾計画図のホームページ掲載について

1. 第1階層／トップページ <https://www.kanchi.or.jp/>



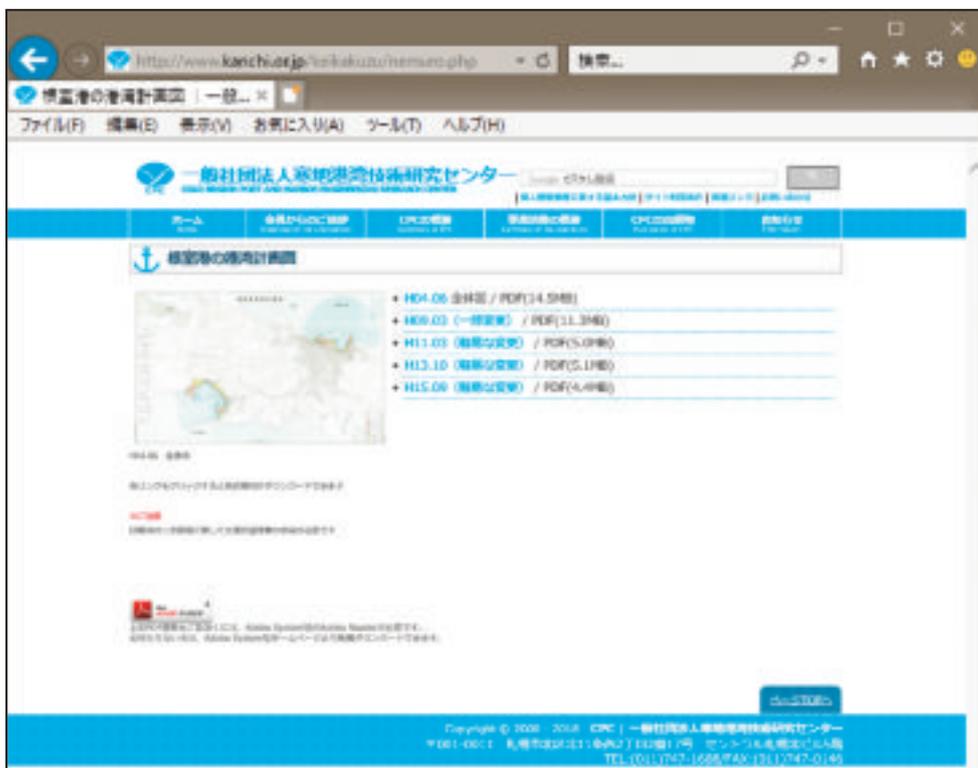
新たにバナー設置
「北海道主要港の
港湾計画図」



2. 第2階層／対象港表示 <https://www.kanchi.or.jp/keikakuzu/>



3. 第3階層／改訂、変更毎の選択を表示 <https://www.kanchi.or.jp/keikakuzu/nemuro.php>



必要な計画図を選択し
ダウンロード

NETIS 登録申請支援業務を開始しました

11月1日からNETIS新技術情報提供システム登録申請支援事業を開始しました。

これは先端建設技術の普及促進を目的に、民間において研究・開発された新技術について、国土交通省が運営するNETIS新技術情報提供システムへの登録支援を行うものです。

対象は北海道地方における港湾・空港及び海岸です。

実施要領、実施規約等は当センターホームページからご覧いただけます。

なお、参考に登録支援に関するフロー図を掲載します。

NETIS 登録支援業務 フロー図

